報告とお礼

12.3「とめよう！原発依存社会への暴走 1 万人集会 -うごかすな老朽原発-」に 1600 人

5 月末から半年以上をかけて準備した「12.3 とめよう！原発依存社会への暴走 1 万人集会 -うごかすな老朽原発-」（大阪市内うつぼ公園）には、1 万人の結集を期待したものの、ご参加は 1600 人にとどまりました。

参加者数については、やや無念ですが、希望も沢山ありました。まず、福井から近年には珍しく約 80 人の参加があり、名古屋から 27 人、首都圏などの全国から合計約 150 人が参加され、20 の核施設立地からのメッセージも頂きました。運動の全国的広がりは、特筆すべきものであり、全国的な反原発運動の爆発につながる種火になったと言えます。また、いろいろな制約を乗り越えて、原発を課題にした一点共闘も生まれたことは、幅広い政党の代表の参加やメッセージの寄稿、様々な労働団体、市民運動団体の連帯挨拶などから、また、集会会場に多数・多様な団体の旗、幟が林立していたことからも見て取れます。ただし、これらの団体の内、組織的な結集を呼び掛けて下さったところは、一部にとどまりました。「老朽原発うごかすな！実行委員会」のような市民団体が、行動を呼びかけることのメリット（利点）とリミット（限界）を物語っています。この課題をどう乗り越えるのか、乗り越えられないのかが今度の課題です。

課題は山積ながらも、12.3「1 万人集会」では、いま多くの人々の共感を得ている 3 つの課題「使用済み核燃料の行き場はないぞ!」「老朽原発うごかすな！」「放射能汚染水を流すな！」を前面に押し立てて、民意を無視して「原発依存社会」に向かって暴走する岸田政権とその尖兵・関電の無謀を糾弾し、原発全廃の大きなうねりの端緒を開くことができました。

12.3 集会に、ご支援、ご参加を頂きました皆さん、ありがとうございました。

なお、臨場感あふれる集会の模様や発言内容は「STOP 原子力★関電包囲行動」の「たぬき御膳」さんに配信いただいています。以下の動画をご覧ください。
https://youtu.be/Vh8K8Rqad5M?si=hZcoVYtZAGJkS6Ce

また、集会で配布したプログラム・メッセージ集（冊子）を入手ご希望の方は、下記にご連絡ください。

2023 年 12 月 7 日　老朽原発うごかすな！ 実行委員会
（連絡先；木原壯林：090-1965-7102）

首都圏から参加された青山晴江さんのご報告

12・3「とめよう！原発依存社会への暴走 1 万人集会」に参加してきました。少しひんやりとした冬空の下、1600 人以上の人々が熱い思いで参集しました。

中嶌哲演さんが主催者挨拶をされ、「今の原発の末期的な状況を作り出したのは原子力ムラである。かつて原発建設を止めた小浜市民のひとりだからこそ私は言う。原発を廃炉に！原発のない社会を目指しましょう!」と語られた。続いて龍谷大学教授の大島堅一さんからは「原子力回帰は許されない」というタイトルで、前日日本が賛同した COP28 での米国の宣言、2050 年までに原発エネルギー容量を 3 倍にするということへの懸念、原発による経済的利益は全く無く、国民の負担が増すだけであることなどのお話があった。

全国の原発立地や市民運動の現場からも沢山の報告があった。来年誘致 40 年を迎える青森、「再処理核燃サイクルに今こそとどめを刺そう！」と話された中道さん始め、柏崎刈羽、福島原発事故被害者、とめよう!東海第二原発　首都圏連絡会、福井、愛知・岐阜、伊方、上関、川内などから発言があった。また、関西の市民団体や労働組合からのスピーチもあり、どのお話も現地ならではの状況が伝わる内容だった。

オール福井の宮下さんの報告、使用済み核燃料の乾式貯蔵について、福井県を原発の墓場にするな！という声、また、伊方の近藤さんのお話で、過酷事故時は原発から 5 ～ 30 キロ圏内は屋内退避と言われているが、津波が来たら予想は 10 メートルほどといわれとても助からない、避難もできないのに命をないがしろにされている、四国電力は家庭訪問をして原発や放射能の安全性を説いて回っているなどと語られていたのが心に残りました。

集会プログラムには多くの各地からの連帯メッセージが載せられていて、岸田政権の原発推進を何としても阻もうという市民活動の熱意、それを集結して原発のない社会へと変えようという実行委員会の不屈の意思を感じました。

デモは 4 グループに分かれて行進。日曜の夕暮れ迫る大阪の大通りを行きます。野球の阪神優勝時に歓喜の飛び込みで有名な道頓堀。今日も大勢の若者たちで賑わっていて、その中には橋の上からじっとこちらを見ている人たちの姿も少なからずあった。シュプレヒコールを聴き、幟旗の文字を読んでいる若い人も。「声をあげよう！行動しよう！」伝わったかな。ある報告によると日米韓の政権支持率は 20～30%だというが、不信感とイライラがいつかこの世の中を変えるエネルギーになってくれるといい、そんなことを思いながら幟を担ぎ歩いていました。

隣を歩かれていた関西の女性は、知人に長いこと反原発の活動をされている人がいて、その方の運動を始めた動機が、原発で働いていた弟さんをガンで 20 代で亡くされたことだそうだ。ため息をつきながら、またどこかでお会いしましょうとデモ隊を離れて行かれた。

久しぶりに会えた各地の人々の笑顔が嬉しかった。この人のつながりこそが希望。暗闇の中で意味を持つ灯り、そんなものが感じられた一日でした。 実行委員会の皆さま、ご参加の皆さま、お疲れ様でした。

12.3 集会

「原発回帰」反対 1600人が声

「容量3倍」賛同の政府を批判

「原発回帰」に反対の声を上げようと、大阪市西区の靱公園に3日、市民ら約1600人（主催者発表）が集まった。米国が呼びかけた、「世界全体の原発の設備容量を2050年までに3倍に増やす」との宣言に日本が賛同したことを受け、批判する意見も相次いだ。

「とめよう！ 原発依存社会への暴走」と題し、市民団体や労働組合などでつくる実行委員会が主催した。原発が立地する福井県や愛媛県、再処理工場を抱える青森県などからも登壇。「事故時に逃げられず、被曝したくない自由さえない」「（東京電力）福島第一原発の事故を経験し、宣言に賛同しないことが日本の選択」と訴えた。

「原発のコスト」などの著書がある大島堅一・龍谷大教授（環境経済学）もあいさつ。「原発で電気代が安くなる」といわれることについて、税金が原資となる原発立地地域への交付金や、福島の原発事故で発生した放射性廃棄物の処理費用などの大きさを指摘。「政府や東京電力にとっては安くても、国民にとっては高い」と解説した。

参加者は集会後、御堂筋をデモ行進した。（荻原千明）

メッセージを掲げてアピールする集会の参加者ら＝大阪市西区

2023 年 12 月 4 日
朝日新聞朝刊

原発依存社会とめよう

集会後にデモ行進する、たつみ氏（前列右から２人目）と参加者ら＝３日、大阪市西区

大阪で集会　全国から1600人参加

「とめよう！原発依存社会への暴走」「原発を推進する岸田政権や電力会社にノーを突き付けよう」と訴える集会が3日、大阪市西区の靱（うつぼ）公園で開かれました。主催は「老朽原発うごかすな！実行委員会」。近畿各府県や福井県など全国から1600人が参加し、集会後に難波までデモ行進しました。

「原子力発電に反対する福井県民会議」の中嶋哲演（なかじま・てつえん）氏が主催者あいさつで「福島の汚染水放出、老朽原発の再稼働、使用済み核燃料の増加など末期的な現象をもたらした原発依存社会からの脱却の方途について共に行動の輪を広げよう」と呼びかけました。「原子力回帰は許されない」とする特別アピールで、原子力市民委員会座長の大島堅一龍谷大学教授があいさつしました。

脱原発をたたかう市民団体や労働組合の代表がリレートーク。実行委員会の木原壮林（そうりん）氏が集会宣言を提案しました。

野党各党の代表も参加。日本共産党からは、たつみコータロー衆院近畿比例候補が登壇し、紹介されました。

2023 年 12 月 4 日しんぶん赤旗

12.3 集会

銀杏の色づく 12.3 御堂筋デモ

12.3「とめよう！原発依存社会への暴走 1 万人集会」集会宣言

福島原発事故から 12 年半が経ちましたが、この事故は、原発は現在科学技術で制御できる装置でなく、重大事故を起こせば、生活基盤を根底から奪い去ることを、大きな犠牲の上に教えました。

それでも、政府や電力会社などの原発推進勢力は、ウクライナ紛争によるエネルギー逼迫や炭酸ガス削減を口実にして、原発の稼働に奔走しています。

岸田政権は、本年５月末の通常国会で、５つの「原発推進関連法」を束ねて成立させました。原発の 60 年超え運転を可能にし、原発の運転期間の判断を経産省に委ね、原子力基本法に「原発推進を国の責務とする」の一項を加えました。また、8 月 24 日には、福島原発でたまり続ける放射能汚染水の太平洋への放出を開始しました。「関係者の理解なしには処分しない」とする約束を踏みにじった暴挙です。

このように、「民意を蹂躙する」岸田政権が、「原発依存社会」に向かって暴走しているのです。

一方、政権の意をくむ関電は、運転開始後 50 年近くになる、危険極まりない老朽原発・高浜 1、2 号機、美浜 3 号機の全てを 9 月 15 日までに再稼働させました。

その関電は「使用済み核燃料の中間貯蔵地を本年末までに福井県外に探す。探せなければ老朽原発を停止する」とした約束を、「保有する使用済み核燃料のわずか 5%のフランスへの搬出」や「上関での中間貯蔵地建設調査」などの小手先の奇策と詭弁を弄して、反古にしようとしています。何としても当初の約束を履行させ、全老朽原発を廃炉に追い込まなければなりません。

なお、原発運転で発生する使用済み核燃料の放射線量や発熱量は、取り出し直後には膨大ですから、一定期間、燃料プールで水冷保管しなければなりません。したがって、燃料プールが満杯になれば、原発は運転できなくなります。そのため、政府や電力会社は、発熱量が減少した使用済み核燃料を、プールから取り出して乾式貯蔵することによって、プールに空きを作り、原発運転の継続を可能にしようとしています。その燃料プールは極めて脆弱です。とくに、新しい使用済み核燃料の入った燃料プールが崩壊すれば、大惨事に至ります。

今、電気は足りています。余っています。過酷事故を起こしかねない原発、処理処分法も行き場もなく、何万年もの保管を要する、使用済み核燃料を発生させる原発の運転は百害あって一利なしです。

そもそも、岸田政権や電力会社の「原発依存社会」への暴走は、脱原発の流れに乗り遅れた失敗の政策を取り繕うためです。もし、福島原発事故以降の政権や電力会社が事故の教訓を生かして、原発ときっぱり決別し、自然エネルギーに切り替える政策をとっていたなら、今頃、化石燃料や、核エネルギーに依存することなく、電気を供給できたでしょう。自らの失政を反省せず、更なる原発推進へと暴走する政府と電力会社を厳しく糾弾し、自然エネルギーへの政策転換を求めましょう。

５月に成立した「原発推進関連法」の多くは、未だに施行されていません。したがって、私たちの目に見え、耳に聞こえる行動によって、骨抜きに出来、実行不能に追い込むことも出来ます。

本日、うつぼ公園に結集した私たちは、原発全廃の大きなうねりを出現させ、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会に向かって、力強く前進することを宣言します。

2023 年 12 月 3 日

「とめよう！原発依存社会への暴走　１万人集会」
参加者一同

緊急声明　「原発依存社会」に向かってますます暴走する岸田政権をゆるすな！

岸田政権は、5 月末の通常国会で「原発推進関連法（いわゆるＧＸ 束ね法案）」を改悪し、「原発依存社会」に向かって暴走しています。岸田政権や電力会社は、BWR である東海第２原発、島根原発 2 号機、女川原発（被災原発）の 2024 年再稼働を画策し、川内原発１、２号機、高浜原発 3、4 号機の 40 年超え運転も目論んでいます。原子力規制委員会は本年内に柏崎刈羽原発への「運転禁止命令」を解除しようとしています。

一方、COP28 の首脳級会議（全参加国 150 以上）は「30 年までに再生可能エネルギーの容量を 3 倍に増やす」とする有志国誓約をまとめ、118 カ国（日本を含む）が加わる一方、気候変動への危機感を悪用した日、米、仏、加、韓、英、ウクライナなど約 20 カ国は、50 年までに原発容量を 3 倍に増やす宣言を取りまとめています。このことは、日本では、既存の原発と建設中の原発の全てを稼働させることを意味します。なお、岸田政権は、40 年までにこれを達成しようとし、2024 年改定の「エネルギー基本計画」に盛り込もうとしていています。原発輸出の盛り返しも画策しています。「原発依存社会」に向かってのますますの暴走です。（COP28 に絡み、「気候行動ネットワーク」は、岸田首相の演説に「化石賞」を送っています。日本は、火力発電の脱炭素技術として、燃焼時に二酸化炭素を出さないアンモニアなどを燃料に混ぜる実証技術を進展させ、東南アジアなどに展開しようとしています。この技術で発生する窒素酸化物は二酸化炭素より性質（たち）が悪いし、炭酸ガスの無発生とは程遠い技術です。単なる石炭などの化石燃料使用の延命であることは明白です。）

「原発推進関連法」は５月に成立しましたが、その大部分は、関連法の整備が必要であるため、未だ施行されていません（施行は再来年６月頃？）。私たちの闘い如何では、実行不能に追い込むことが出来きます。

目に見え、耳に聞こえる行動の爆発によって、岸田政権の「原発依存社会」への暴走を阻止しましょう！

老朽原発うごかすな！実行委員会